

厚生労働行政推進調査事業費補助金
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業

新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業の総合的推進に関する研究
平成29年度 ～ 令和元年度 総合研究報告書

研究代表者 大澤 英司
令和2（2020）年 3月

厚生労働行政推進調査事業費補助金 総合研究報告書

目次

I. 総合研究報告

新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業の総合的推進に関する研究----- 1
国立感染症研究所 企画調整主幹 大澤 英司

【資料】

1. 平成29年度 実施課題一覧
2. 平成30年度 実施課題一覧
3. 令和元年度 実施課題一覧
4. 平成30年度 公募要領抜粋
5. 令和元年度 公募要領抜粋
6. 令和2年度 公募要領抜粋

II. 研究成果の刊行に関する一覧----- 5

研究組織

研究代表者

山内 和志 国立感染症研究所 企画調整主幹 (平成29年4月1日～平成30年3月31日)
大澤 英司 国立感染症研究所 企画調整主幹 (平成30年4月1日～令和2年3月31日)

研究協力者

布施 晃 国立感染症研究所 客員研究員 (平成29年度)
有馬 雄三 国立感染症研究所 感染症疫学センター 主任研究官 (平成29年度)
大石 和徳 国立感染症研究所 感染症疫学センター センター長 (平成29年度)
島田 智恵 国立感染症研究所 感染症疫学センター 主任研究官 (平成29年度)
俣野 哲朗 国立感染症研究所 エイズ研究センター センター長 (平成29年度)
吉村 和久 国立感染症研究所 エイズ研究センター 室長 (平成29年度)
竹田 誠 国立感染症研究所 ウイルス第三部 部長 (平成29年度)
松井 珠乃 国立感染症研究所 感染症疫学センター 室長 (平成29、令和元年度)
マシュー・グリフィス 国立感染症研究所 感染症疫学センター 研究員 (平成29年度)
落合 雅樹 国立感染症研究所 品質保証・管理部 室長 (平成29、30、令和元年度)
藤田 賢太郎 国立感染症研究所 品質保証・管理部 主任研究官 (平成29年度)
西條 政幸 国立感染症研究所 ウイルス第一部 部長 (平成29、30年度)
神谷 元 国立感染症研究所 感染症疫学センター 主任研究官 (平成30、令和元年度)
森 嘉生 国立感染症研究所 ウイルス第三部 室長 (平成30年度)
竹田 飛鳥 国立感染症研究所 感染症疫学センター (平成30年度)
土井 育子 国立感染症研究所 感染症疫学センター (平成30年度)
脇田 隆宇 国立感染症研究所 所長 (平成30年度)
福住 宗久 国立感染症研究所 感染症疫学センター 研究員 (平成30年度)
阿戸 学 国立感染症研究所 ハンセン病研究センター感染制御部 部長 (平成30年度)
宮本 友司 国立感染症研究所 ハンセン病研究センター感染制御部 主任研究官 (平成30年度)
宮崎 義継 国立感染症研究所 真菌部 部長 (平成30年度)
名木 稔 国立感染症研究所 真菌部 主任研究官 (平成30年度)
重松 美加 国立感染症研究所 感染症疫学センター 主任研究官 (平成30年度)
林 昌宏 国立感染症研究所 ウイルス第一部 室長 (令和元年度)
砂川 富正 国立感染症研究所 感染症疫学センター 室長 (令和元年度)
鈴木 基 国立感染症研究所 感染症疫学センター センター長 (令和元年度)
内藤 誠之郎 国立感染症研究所 品質保証・管理部 主任研究官 (令和元年度)
田村 大輔 自治医科大学 小児科 講師 (令和元年度)

プログラムオフィサー

菅又 昌実 首都大学東京大学院人間健康科学研究科 教授 (平成29～令和元年度)
森 亨 公益財団法人結核予防会結核研究所 名誉所長 (平成29～令和元年度)

(所属・役職は研究参加当時のもの)

I. 厚生労働行政推進調査事業費補助金 (新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業) 総合研究報告書

新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業の総合的推進に関する研究
研究代表者 大澤 英司 国立感染症研究所 企画調整主幹

研究要旨

厚生労働行政推進調査事業費補助金 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業において実施する研究課題の評価及び企画の実施、研究成果や感染症に関する情報の活用、研究推進の支援方法、評価方法の検討・改善について研究することで、当研究事業のより円滑かつ適切な実施と総合的推進に資することを目的とする。また、その研究成果を新興・再興感染症対策等の行政・国民ニーズに即した感染症関連研究の一層の推進に役立てることで、新興・再興感染症等の脅威から国民の健康や生活を守ることにつながると期待される。

A. 研究目的

厚生労働省においては、新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業を中心として、行政ニーズに直結した感染症に関する研究を推進しており、この研究事業を適切かつ効果的に実施することは、感染症対策を行う上で不可欠であり、研究課題の設定、研究者の選考、研究費の配分、研究成果の評価と研究を実施する研究者への支援を適切に行うことが求められている。

本研究課題では、新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業の企画・評価に必要な情報収集・調査を行うと共に、本研究事業において実施される研究課題について、研究代表者及び研究協力者、プログラムオフィサー（以下、「PO」と言う）により、研究の進捗状況を把握する。また、各研究班が新興・再興感染症研究等の専門家（以下、「評価委員」と言う）による助言を適切に取り入れ、研究の推進に役立てられるよう、各研究班が開催する班会議やシンポジウムにPOが出席し、適時進行管理、アドバイス、調整を行い、研究事業全体の質を担保する役割を担っている。

これらの実施を通して、研究の企画・評価の方法や、研究成果の活用、研究の推進の支援方法、より適切かつ円滑な評価方法の検討・改善について研究し、新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業の一層の推進に資することを目的とする。また、その成果を、行政・国民ニーズに即した新興・再興感染症対策等の一層の推進に役立てることで、感染症等の脅威から国民の健康や生活を守ることにつながると期待される。

さらに、新興・再興感染症対策の効果的な推進のため、新興・再興感染症関連施策に関する国内外の情報収集や広報活動を行う。

B. 研究方法

1. 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業の企画・評価等の支援

平成29年度から令和元年度に新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業により実施された研究課題（一般公募及び指定）に関して、厚生労働省が行う研究の企画・評価等の支援として次の（1）～（4）を実施した。

（1）評価委員による評価組織（評価委員会）との連絡・情報共有、「研究評価支援システム」を活用した評価の支援

（2）PO等による研究班会議への出席及び研究の進捗状況の把握、助言、評価委員・厚生労働省への情報提供

（3）新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業において実施されている研究課題を対象とした研究発表会の実施

（4）POと厚生労働省担当者と共に班会議の情報を共有する目的で開発した「班会議情報共有システム」を活用し、情報共有・情報交換が一段と深まるよう活動を支援

2. 研究の企画・評価等の支援方法の検討

上記（1）、（2）の実施を通して、今後の研究の企画・評価、研究実施に対する効率的・効果的な支援方法についての検討を行った。

（倫理面への配慮）

本研究課題においては、患者等の診療情報や試料、実験動物を用いることはなく、人を対象とする医学研究に関する指針に関して特に配慮すべき内

容は含まないが、研究者の個人情報や研究課題内容に関する情報等を収集することから、その取扱いについては研究者等に不利益を与えないよう十分に配慮した。

C. 研究結果

1. 研究課題の評価の実施等

(1) 研究の進捗状況の把握、助言等

平成29～令和元年度を通して、新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業において研究を行った研究代表者に対し、研究班会議開催についての情報提供を依頼し、当研究班代表者及びPO、厚生労働省担当者が分担して出席可能な研究班会議に出席した。

POには、オブザーバーとして研究班会議への出席を依頼し、各研究班の研究内容に関して情報収集を行うと共に、アドバイス等も行い、研究班会議出席後にPOが作成した報告書を取りまとめた上で、「研究班会議におけるPO意見一覧」【資料4】として、評価委員へ提供する等の一連のプロセスを実行することで、研究事業の質の担保や、研究の円滑な実施、さらには評価委員による適切な評価に貢献した。

(2) 研究成果の取りまとめ

全課題の研究代表者に対して研究成果概要の作成を依頼し、その取りまとめを行った。この成果概要は、評価委員による書面評価の資料とした。

(3) 研究成果発表会・ヒアリングの実施

中間・事後評価委員会開催前に、全研究班を対象に、研究成果発表会を開催した。研究成果発表会は、評価委員によるヒアリングの場とすると共に、他研究課題の成果を共有する機会として、新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業の研究代表者及び研究分担者、事前評価委員ならびにPOにも参加を案内した。その結果、本研究事業の各研究班における研究成果をより多くの研究者が把握することができた。

同様に、事前評価委員会開催前に、翌年度の新規課題の応募者に対してヒアリングを実施し、事前評価委員が応募課題の内容をより深く理解し評価することを支援した。

2. 研究の企画・評価等の支援方法の検討

(1) 研究評価支援システムの活用

評価委員からのコメントに基づき、これまで開発・運用してきた「研究評価支援システム」を積極的に活用し、評価業務を適正に行った。平成30年度は、評価業務の効率化を一層推進するため、評価委員会資料のペーパーレス化を検討し、タブレット端末を導入した。令和元年度は、委員会当日、会議室においてタブレット端末で研究計画書、成果

概要をPDFで閲覧できるように改善を行った。

(2) 班会議情報共有システムの活用

POと厚生労働省担当者とともに班会議の情報を共有するためのインターネットを利用した「班会議情報共有システム」を積極的に活用し、当事務局で得た班会議開催情報をこのシステムからPO、厚生労働省担当者に発信することにより、三者間で迅速かつ効率的に情報共有を行った。

(3) 感染症にかかる広報活動

平成29年度、研究協力者の布施は、国立感染症研究所の「知の市場」等の場を活用し、本事業の研究に関連するアウトリーチ活動を行うことで、新興・再興感染症等に関して国民及び社会の理解増進を図った。

3. 我が国の新興・再興感染症対策に資するよう新興・再興感染症研究等に関する情報収集として、次の(1)～(29)の国際会議等に出席し、各国の感染症研究機関での活動について情報収集を行った。

(1) 平成29年4月 マレーシア

「第11回WHO西太平洋地域と南東アジア地域におけるナショナルインフルエンザセンターとインフルエンザのサーベイランスに関するミーティング」

渡航者：有馬雄三（研究協力者）

(2) 平成29年5月 シンガポール

「第8回 ASEAN Plus Three Field Epidemiology Training Network(ASEAN +3 FETN)」

渡航者：大石和徳（研究協力者）

：島田智恵（研究協力者）

(3) 平成29年6月 フィリピン

「第26回WHO西太平洋地域事務局(WPRO)のワクチン接種に関する技術委員会」

渡航者：大石和徳（研究協力者）

(4) 平成29年6月 フィリピン

「HIV、肝炎、性感染症 プログラム担当者会議」

渡航者：俣野哲朗（研究協力者）

：吉村和久（研究協力者）

(5) 平成29年6月 スイス

「第15回WHOグローバル麻疹風疹実験室ネットワーク会議」

渡航者：竹田誠（研究協力者）

(6) 平成29年7月 フィリピン

「Regional Meeting of the Technical Advisory Group on the Asia Pacific Strategy for Emerging Diseases and Public Health Emergencies (APSED III)」

渡航者：松井珠乃（研究協力者）

(7) 平成29年8月 タイ

「第26回WHO西太平洋地域事務局(WPRO)のワクチン接種に関する技術委員会」
渡航者：マシュー・グリフィス（研究協力者）

(8) 平成29年8月 フィリピン
「西太平洋地域におけるワクチン・医薬品規制当局の連携に関する運営委員会」および「第6回西太平洋におけるワクチン及び医薬品規制に係るワークショップ」
渡航者：落合雅樹（研究協力者）
：藤田賢太郎（研究協力者）

(9) 平成29年10月 スイス
「WHO Expert Committee on Biological Standardization(ECBS)」
渡航者：落合雅樹（研究協力者）

(10) 平成29年11月 メキシコ
「第30回Global Health Security Action Group-Laboratory Network (GHSAG-LN)」
渡航者：西條政幸（研究協力者）

(11) 平成30年6月 フィリピン
「第27回WHO西太平洋地域事務局(WPRO)のワクチン接種に関する技術委員会」
渡航者：神谷 元（研究協力者）

(12) 平成30年6月 ポルトガル
「第16回WHOグローバル麻疹風疹実験室ネットワーク会議」
渡航者：森 嘉生（研究協力者）

(13) 平成30年6月 オランダ
「経済的に恵まれない地域での高病原性病原体検査の支援のあり方の標準化のための国際会議」
渡航者：西條 政幸（研究協力者）

(14) 平成30年9月 台湾
「日台シンポジウム」
渡航者：神谷 元（研究協力者）
：竹田 飛鳥（研究協力者）
：土井 育子（研究協力者）

(15) 平成30年9月 中国
「第4回ワクチンの標準化に関するWHOコラレーションネットワーク会議」
渡航者：脇田 隆宇（研究協力者）

(16) 平成30年10月 スイス
「WHO Expert Committee on Biological Standardization(ECBS)」
渡航者：落合 雅樹（研究協力者）

(17) 平成30年11月
「第9回東南アジア、西太平洋地域TEPHINET会議」
渡航者：福住 宗久（研究協力者）

(18) 平成30年11月 ベトナム
「ハンセン病及び皮膚抗酸菌症に関する共同研究並びにベトナムにおけるハンセン病の発生动向等に関する情報収集」
渡航者：阿戸 学（研究協力者）

宮本 友司（研究協力者）

(19) 平成30年11月 ベトナム
「ベトナムにおける真菌症等の疫学、病原体の検査方法及び関連施策等に関する情報収集」
渡航者：宮崎 義継（研究協力者）
：名木 稔（研究協力者）

(20) 平成30年12月
「国際標準化機構専門委員会212ワーキンググループ5会議」
渡航者：重松 美加（研究協力者）

(21) 令和元年6月 フィリピン
「第28回世界保健機関西太平洋事務局のワクチン接種に関する技術委員会」
渡航者：林 昌宏（研究協力者）

(22) 令和元年6月 フィリピン
「第28回世界保健機関西太平洋事務局のワクチン接種に関する技術委員会」
渡航者：砂川 富正（研究協力者）

(23) 令和元年6月 フランス、スイス
「世界保健機関の感染症情報システムに関する調整会議」
渡航者：松井 珠乃（研究協力者）

(24) 令和元年6月 フィリピン
「世界保健機関西太平洋事務局のアジア・太平洋の新興感染症戦略に関する技術委員会」
渡航者：鈴木 基（研究協力者）

(25) 令和元年7月 マレーシア
「東南アジア諸国連合の実地疫学専門家ネットワーク会議」
渡航者：松井 珠乃（研究協力者）

(26) 令和元年6月 スイス
「世界保健機関の生物学的製剤の標準化に係る専門家会議」
渡航者：落合 雅樹（研究協力者）

(27) 令和元年10月 アメリカ合衆国
「実地疫学専門家ネットワークの科学に関する国際会議」
渡航者：神谷 元（研究協力者）

(28) 令和元年11月 南アフリカ
「世界保健機関の生物学的製剤の国立検査機関ネットワーク・第3回総会」
渡航者：内藤 誠之郎（研究協力者）

(29) 令和元年11月 イタリア
「新型インフルエンザの薬物以外の介入方法に関する国際会議」
渡航者：田村 大輔（研究協力者）

D. 考察

感染症及び予防接種行政の課題には、海外からの侵入が危惧される感染症及び国内で発見が見られる感染症についての全般的及び個別的な対策の

推進と、予防接種施策の推進等がある。これらの課題に対して、国内外の新興・再興感染症に関する研究を推進し、予防接種を含む行政施策の科学的根拠が必要である。そのため、感染症に関する危機管理機能の強化に資する研究、感染症法に基づく特定感染症予防指針の策定及び改定に資する研究、感染症サーベイランス機能の強化に資する研究、予防接種施策の推進及び評価に関する研究、感染症指定医療機関等における感染症患者に対する医療体制の確保及び質の向上に資する研究等を行う必要がある。特に平成29年度～令和元年度は、オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた感染症対策の強化に関する研究、薬剤耐性（AMR）対策に資する研究が推進された。

新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業において、感染症研究を総合的に推進する体制を強化していくことは非常に重要である。また、その研究結果は、厚生労働省における感染症対策を推進するための基盤になっていると言える。本事業によって、我が国の感染症関連研究が目覚ましく発展し、その成果は国際的にも大きな評価を得ていると考えられる。また、感染症に関する様々な行政課題に適切に対応するためには、現行の感染症政策研究を評価し、課題を抽出する本研究班の必要性が高いと言える。

E. 結論

新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業において実施される研究課題の企画・評価及び各研究班への支援を行った。これらの取組みを通じてさらに適切かつ円滑な支援方法等の改善について検討を行い、感染症対策の総合的推進に資する研究の効率的・効果的な実施に貢献したと考えられる。具体的には、研究成果発表会ならびにヒアリングの開催や、POの班会議参加及び評価委員への報告書の提供を通じて、より良い研究評価に貢献した。加えて、「研究評価支援システム」、「班会議情報共有システム」を有効活用し、効率的な評

価の支援を行った。また、本事業に関連する国際会議等への出席、アウトリーチ活動を行うことで、新興・再興感染症等に関して国民及び社会の理解増進を図った。

新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業をさらに推進するためには、研究課題の適切な設定と、研究者（組織）の選定及び研究費の効率的・効果的な配分、研究課題の実施支援と適切な評価、さらにその評価を踏まえた課題の設定と研究者の選定というサイクルを適切に回していくことが基本である。そのためには、研究を取り巻く情報、研究の進捗状況や成果に関する情報及びこれらを踏まえた評価と、その結果のフィードバックを、研究の評価者及び実施者双方に対して十分に行うことが重要である。このため、当研究班において感染症関連研究に関する情報の収集、評価委員と研究者、行政担当者との円滑な情報共有や、研究事業の企画・評価及び研究の実施のための情報提供を行ったことは、本事業の推進に寄与したと考えられる。

F. 健康危機情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

IV. 研究成果の刊行に関する一覧
なし